

2021年度 大学行政管理学会 研究会・研究グループ活動 報告書

研究会等名称 (設置地区)	「大学職員」研究グループ
活動目的	本研究グループは、1999年1月に発足し、次の研究課題を念頭に活動しています。 1) 大学経営・運営において専門的な実践力のある大学職員の在り方を研究する。 2) 本研究グループに参加する大学職員自身の自己研鑽活動を支援する。
参加資格・条件	参加資格は、当学会及び大学マネジメント研究会の会員を原則としていますが、大学職員の活動に強い関心をお持ちの方であれば、対応可能です。また、職制や経験年数に左右される研究会でもありません。本研究グループの研究会は、タイムリーなテーマ設定に基づく小講演や参加者のディスカッションを中心に運営しています。
活動状況 ①開催ペース (毎月1回、第何曜日など) ②主たる開催場所 ③主な活動経過 ④現在の活動状況・研究テーマ等	<p>①年間数回開催を目途とし、通常は土曜日の午後に開催しています。8月下旬に合宿研修会を開催することもあります。合宿研修会は、時間に制限されずに議論を深められることから、参加者自身の自己研鑽を主な目的としています。</p> <p>②研究会の会場は、研究会リーダーの関係もあり、主に京都大学（東京オフィスを含む）ですが、本学会でのテーマ別研究会は、他の地区でも適宜開催するという趣旨に則り、これまで全国主要都市でも開催してきました。</p> <p>③これまでの主な活動成果…研究集会での発表は適宜省略</p> <p>1) 平成13(2001)年9月「<u>大学職員—その属性—</u>」を発表。現在もサイトで公開。</p> <p>2) 平成16(2004)年8月「<u>大学行政管理学会員を対象とした大学職員現状意識調査報告(2003年8月)</u>」(大学行政管理学会誌第7号85-156)を発表。</p> <p>3) 平成18(2006)年8月「<u>国公立大学学長と私立大学理事長の大学職員に対する意識調査報告(第1報)—2005年10月実施のアンケート調査結果を中心として—</u>」(大学行政管理学会誌第9号61-82)を発表。</p> <p>4) 平成19(2007)年8月「<u>国公立大学学長と私立大学理事長の大学職員に対する意識調査報告(第2報)—2006年実施のインタビュー結果を中心として—</u>」(大学行政管理学会誌第10号155-163)を発表。</p> <p>5) 平成19(2007)年9月パンフレット「<u>プロフェッショナルである大学アドミニストレーターの専門性—個人的能力のキャリアパス—</u>」を学会ウェブサイトで公開。</p> <p>6) 平成20(2008)年「<u>職員検定制度に関する検討について—Audience Response Systemを用いた意識調査から—</u>」を発表。</p> <p>7) 平成21(2009)年「<u>SDプログラム開発手法とSDプログラムモデルの提示～職員の専門職化への道標～</u>」を研究集会で発表。</p> <p>8) 平成22(2010)年「<u>これまでの職員教育SDの再考～新たなSDの視点を探る～</u>」を研究集会で発表。</p> <p>9) 平成24(2012)年「<u>職員は適正に機能して大学運営・経営に適正に貢献しているのだろうか?</u>」を研究集会で発表。</p> <p>10) 平成26(2014)年「<u>国公立大学の学長・理事長を対象として行ったアンケート調査結果報告</u>」を研究集会で発表。</p> <p>11) 平成27(2015)年「<u>大学職員に関連する政策提言と様々な業務に携わる大学職員の在り方</u>」を研究集会で発表。</p> <p>12) 平成29(2017)年「<u>大学職員論と大学職員研究グループの取組み～SDの法制度化に当たって～</u>」(大学行政管理学会誌第20号141-149)を発表。</p> <p>④現在の活動状況・研究テーマ等：毎年度初めに活動方針等を定め、この数年は以下のテーマを中心に活動を展開しています。また、直近ではタイムリーなテーマの小講演も取り入れつつ、参加者個人の関心に基づくSDを実感できる活動を展開しています(例；令和元年12月開催時の参加者数は15名。通常20名程度の参加者で実施している。)</p> <p>1) 大学職員の労働生産性の向上…業務の効率化、組織の合理化等</p> <p>2) 教学マネジメントを担う職員の役割…組織と個人の関係性等</p> <p>3) 大学職員のキャリアデザイン…職員個人の在り方に光を当てる</p>